

コロナ禍が世界規模で広がる中、医療設備が充実している日本でも医療崩壊の危機が懸念され、改めて医療施設、医療体制の重要性が認識された。

清水建設は医療関連施設の建設で国内トップの実績を誇る。経験と技術は国内だけでなく世界で医療の充実に生かされている。医療関連施設の海外プロジェクトは1981年のアフリカ・ザンビアでの小児科病棟建設が第一歩。その後、13カ国で医療施設の充実に貢献してきた。

アジアでは経済発展とともに人口が増加し長寿化や高齢化など、これまで日本がたどってきたのと同じ道を歩んでいる。その中で高まっているのが質の高い医療に対する需要だ。

アジアの中で優等生とされるシンガポールも高齢化は日本に勝る速さで進んでいる。近年、

海外建設協会

プロジェクト便り

◆アジア・アフリカ

医療施設建設プロジェクト

国内トップの実績・経験生かす

清水建設

同国保健省が動き、地域病院の新設や高度医療施設の整備に力を切った。地域病院の機能拡充で地域医療の改善と三大疾病とされるがん、心臓疾患、脳卒中への対応を強化するためだ。医療機能の充実に目指す同国の取り組みで、清水建設は国立



ガーナ野口記念医学研究所先端感染症研究センター（設計：日本設計）

同国保健省が動き、地域病院の新設や高度医療施設の整備に力を切った。地域病院の機能拡充で地域医療の改善と三大疾病とされるがん、心臓疾患、脳卒中への対応を強化するためだ。医療機能の充実に目指す同国の取り組みで、清水建設は国立

台湾でも同様の陽子線治療病院を建設中だ。シンガポールや台湾、タイなど、医療分野でも先進国の仲間入りを果たしている地域がある一方、アジアの中でも医療施設が充実していない地域はまだ多い。

開発途上国ではいまだにエイズや結核、マラリア、デング熱などの感染症で多くの人命が奪われている。特にアフリカでは、生まれた子どもの約1割が満5歳に達する前に死亡する国々もある。妊産婦死亡率とともに一層の改善が必要とされている。

基本的な手術や検査などを行う1次レベル病院が不足しているザンビアの首都ルサカで、清水建設は日本の政府開発援助（ODA）を通じて5カ所の病院を建設した。ガーナでも2018年に日本のODAで「野口

安全・安心な生活実現へ

ザンビアルサカ郡病院（設計：日本設計）



記念医学研究所先端感染症研究センターも手掛けた。

野口記念医学研究所は同国で生涯を閉じた野口英世博士に敬意を表し、ガーナ大学の生物医学研究機関として設立された。西アフリカ地域の感染症対策の中心的な役割を果たし、国際的にも認知されている研究機関だ。

鳥インフルエンザウイルス、新型コロナウイルス、黄熱ウイルス、炭疽（たんそ）菌など危険度の高い病原体を扱うBSL3（バイオセーフティーレベル3）実験室をはじめ、ウイルス

学研究室実験室、細菌研究室実験室、免疫研究室実験室、分子生物学実験室など、最先端の実験施設を備える先端感染症研究センターの建設により、一層高度な研究・実験を安全かつ確実に実施することが可能となった。

世界中で新型コロナウイルスがまん延している。人類は今世紀最大の危機に直面しており、死者数は日々増え続けている。感染症を原因とした世界全体の死亡率は以前から高い。新型コロナウイルスも含め感染症は予防が可能であり、適切な治療を受けることで死亡率を下げられる。その取り組みの中核を担うのが医療施設であり、施設の充実に求められる。

日本政府は質の高いインフラ投資を掲げている。投資先には人命に直結する社会インフラの根本である医療関連施設の整備も含まれている。世界中の人々が健康で安全・安心な社会生活を送れるよう、清水建設は日本国内で培った医療分野の経験・知見を持ち寄り、海外の病院建設プロジェクトを通して貢献し続ける。

（国際支店副支店長・村田佳隆）

